

断層変位評価に関する課題
横浜国立大学 都市イノベーション研究院 小長井一男

Summary

2004年新潟県中越地震の事例を中心に、発生した被害、精密な地形変動データからの地中の応力分布の推定、応力分布と被害箇所の対応について示し、断層変位評価に関する課題について議論する。主な結論は以下のとおりである。

- ・精密な地形変動のデータから地中の応力の分布を推定することができる。ただし、初期応力の推定が不可欠である。

- ・ $\sqrt{J_2}$ （せん断応力に相当）の大きい部分の帯は、地震時に発生したトンネルの被害箇所、斜面崩壊箇所、さらに地すべり地形分布とよく対応する。同じような地殻変動がこの地域で繰り返されてきたことを示している。

- ・断層線のみに着目するのではなく、地域の面としての情報を取得して、地震時に地域システムとしてどのような被害が起こるのかを考えることが必要になってくる。